

第5章 定義と分類

「便秘」とは日常的に使用される言葉、概念であり、そのとらえ方、考え方は人によって異なるが、一般的には「便が滞った、または便がでにくい状態」と定義される。また「便秘症」とは、便秘またはそれによる症状が表れ、診療や治療を必要とする場合である。便秘は病状の期間から慢性便秘(症)と一過性便秘(症)に、原因から機能性便秘(症)と器質性便秘(症)に分類され、慢性機能性便秘症の診断基準として国際的には Rome III が使用されている。

CQ1 便秘とはどのような状態か

便が滞った、または便がでにくい状態である(コンセンサスレベル 8)

排便は習慣的に行われており、またその習慣は個々で異なる。よって「便秘」としてのとらえ方、考え方も人(個々)によって違うことを、医療者は認識しておく必要がある。「便が滞った状態」とは、なんらかの原因によって排便回数や便量が減少した状態であり、「便がでにくい状態」とは、排便するのに努力や苦痛を伴う状態、小児では排便時の肛門の痛みで泣いたり、いきんでも排便できない状態である。

CQ2 便秘症とはどのような場合か

「便秘」による(身体)症状が表れ、診療や治療を必要とする場合である(コンセンサスレベル 8)

「症」とは、診療や治療の対象となる“やまい(病気)”である。「便秘による症状」とは、便秘によって生じた腹痛や腹部膨満、腹部不快感、不安、また排便する際の痛みや出血である。

CQ3 便秘(症)はどのように分類されるか

病状の期間から慢性便秘(症)と一過性便秘(症)に、原因から機能性便秘(症)と器質性便秘(症)に分類される(コンセンサスレベル 9)

一過性便秘と急性便秘は同義語である。一過性便秘とは、便が排出されてしまうと症状が消失し、排出までの時間も短期間である場合である。長期間にわたり持続的にみられる場合、慢性便秘とされる。器質性(器質的とも表記される)便秘とは症候性便秘と同義語で、解剖学的異常を含む器質的疾患による便秘で、基礎疾患・全身疾患に伴う便秘も含まれる(CQ16 参照)。機能性便秘は、器質性便秘を除いた便秘で、特発性便秘ともよばれる。単純性便秘、習慣性便秘とはほぼ同義語である。このガイドラインでは、慢性便秘(症)、一過性便秘(症)、機能性便秘(症)、器質性便秘(症)を用語として採用した(エビデンスレベル 5)¹⁾。

CQ4 慢性機能性便秘症の診断基準とはどのようなものか

国際的に使用されている診断基準を表 5-1 に示す(コンセンサスレベル 9)

表 5-1 Rome III

Neonate/Toddler
<p>4歳未満の小児では、以下の項目の少なくとも2つが1か月以上あること</p> <ol style="list-style-type: none"> 1週間に2回以下の排便 トイレでの排便を習得した後、少なくとも週に1回の便失禁 過度の便の貯留の既往 痛みを伴う、あるいは硬い便通の既往 直腸に大きな便塊の存在 トイレが詰まるくらい大きな便の既往 <p>随伴症状として、易刺激性、食欲低下、早期満腹感などがある。大きな便の排便後、随伴症状はすぐに消失する。</p> <p>乳児では、排便が週2回以下、あるいは硬くて痛みを伴う排便で、かつ診断基準の少なくとも1つがある場合、便秘だとみなされる。</p>
Child/Adolescent
<p>発達年齢が少なくとも4歳以上の小児では、以下の項目の少なくとも2つ以上があり、過敏性腸症候群の基準を満たさないこと</p> <ol style="list-style-type: none"> 1週間に2回以下のトイレでの排便 少なくとも週に1回の便失禁 便を我慢する姿勢や過度の自発的便の貯留の既往 痛みを伴う、あるいは硬い便通の既往 直腸に大きな便塊の存在 トイレが詰まるくらい大きな便の既往 <p>診断前、少なくとも2か月にわたり、週1回以上基準を満たす</p>

(文献 2,3)より作成)

過去にさまざまな診断基準が示されているが、現在、疫学的調査や研究では2006年に示された国際的な機能性消化管障害の分類、診断基準である Rome III^{2,3)}が適応されている。実際の日常診療においては、この基準を満たす必要はなく、項目のような臨床症状や所見があれば、便秘症と診断されている。すなわち診断基準に当てはまらないことが必ずしも便秘症を否定することではない。

📖文献

- 1) 窪田 満, 牛島高介, 八木 実, 他: 小児慢性機能性便秘症診療ガイドラインの作成に向けたアンケート調査. 日本小児栄養消化器肝臓学会雑誌 2013;27(印刷中)
- 2) Hyman PE, Milla PJ, Benninga MA, et al.: Childhood functional gastrointestinal disorders: neonate/toddler. *Gastroenterology* 2006;130:1519-1526
- 3) Rasquin A, Di Lorenzo C, Forbes D, et al.: Childhood functional gastrointestinal disorders: child/adolescent. *Gastroenterology* 2006;130:1527-1537

📖参考文献

- ・ Benninga M, Candy DC, Catto-Smith AG, et al.: The Paris Consensus on Childhood Constipation Terminology (PACCT) Group. *J Pediatr Gastroenterol Nutr* 2005;40:273-275